



比田の新しい特産・夏イチゴ

今年から比田で栽培が始まった夏イチゴを味わおうと、「え〜ひだサマーフェスタ」〜比田いちご祭り〜が7月15日に開催されました。

夏イチゴは認定農業者の上廻達矢さんと地域おこし協力隊の重森はるかさんがイチゴの生産量の少ない夏場の需要を見込み、今年4月から栽培を開始。酸味が強くさっぱりとした味でケーキやお菓子との相性がよい品種“すずあかね”をハウスの中で高設栽培を用いて育てました。6月下旬頃から真っ赤な果実が数多く実り出荷しています。

イベントの会場となった比田いきいき交流館前には、夏イチゴを使ったスムージーやかき氷、イチゴ大福などの商品がズラリと並び、多くの人でにぎわっていました。

重森さんは「害虫や病気の防除が難しかったが品質よいものができた。新たな比田の特産になれば」と話していました。

英語でしゃべろう イングリッシュ キャンプ!

外国や英語へ子どもの興味・関心を高めようと7月31日、外国語指導助手(ALT)4人がイングリッシュキャンプを安来保育所で開催しました。

キャンプ中は終始英語。子どもたちは色や動物の単語を覚え、会話形式で実践しました。先生が子どもたちに好きな動物を英語でたずねると、手を挙げて元気よく「アイ ライク ベアー」などと答え、英語に親しみました。

神崎廉仁くん(5歳)は「先生たちに教えてもらって好きな色を英語で答えることができた。また来てほしい」と話していました。この催しは伯太中学校や和鋼博物館でも開催されました。



まちの話題や出来事をご紹介します



アルテピア竣工式の出席者に大ホールをお披露目。ホールは別世界。荘厳なつくりや最新設備に期待が膨らみます。

今月の一枚



▲キャンプを行ったALT(左からダイアナさん、ドーンさん、ダミアンさん、マリクさん)。

山頂に響く広瀬祇園祭

7月21日の夕暮れ、薄暗くなった城下町に点々と灯りが浮かび上がり、整備された月山山頂にも広瀬祇園祭の神輿の掛け声が響いてきます。数百年の時を超えて伝統の祭りが今年も開催されました。

▶ 山頂に掛け声が聞こえてきました。



◀ 引き継がれながら神輿が町を練り歩きます。

願いを込めて「ヤッホ、ヤッホ」

安来町内で7月15日、ヤッホー神事が行われました。ヤッホー神事は江戸時代から続き、安来神社の祇園祭として行われています。

当日、暗くなると自治会ごとに子どもたちが法被姿で町名入りの提灯を持って集まりました。そのまま安来港へ向かい、海水で身を清め、各町内を「ヤッホ、ヤッホ」と声をあげて練り歩き、無病息災や町の繁栄を祈願しました。

各家では「ヤッホー」の音が聞こえると、通りへ出て、子どもたちを拍手で迎えていました。



一日だけのちいさな消防士

子どもたちに防火・防災や命の大切さを学んでもらおうと、安来市消防本部で8月6日、一日消防署体験学習が開かれました。

この日は、市内小学生の35人が参加。4班に分けて、地上7mを渡るロープ渡り体験、はしご車搭乗、濃煙体験など6種類の消防体験をしました。

約5m先の的へめがけて放水をした川上知穂さん(赤屋小)は「水の勢いが強くてすごかった」と驚いたように話していました。



お殿様も通った歴史街道を整備

宇賀荘歴史の道を守る会が7月11日、文化庁が選定する「歴史の道百選」に選ばれている広瀬・清水街道の環境整備を行いました。

この街道は、昔から清水寺に参詣する人などが主要道として往来。また、江戸時代は広瀬藩の殿様が参勤交代でも使用した由緒ある道です。

今も石碑や嵩神社など見どころが残り、近年この街道を散策する人が増えています。

今回整備したのは宇賀荘地区内の新御堂集会所から清水峠の1.5km。草刈りや地区の特産であるツバキの植樹などを行い、歴史ある街道をきれいにしました。